

17th International Symposium on Advanced Plasma Science and its Application for Nitrides and Nanomaterials / 18th International Conference on Plasma-Nano Technology & Science (ISPlasma2025/IC-PLANTS2025)

開催場所：Kasugai, Aichi.

開催日程：2025/3/3~7

学会 HP：<https://www.isplasma.jp/www2025/>

2025年3月3日~7日、中部大学で第17回 ISPlasma/IC-PLANTS が開催された。国内外から381名（国内234名、国外147名）が参加し、発表件数は計284件に上った。会議ではプラズマ科学、ワイドバンドギャップ半導体、ナノ材料、プラズマバイオといった分野で最新研究成果が共有され、産業界との技術移転や異分野融合を促進する貴重な情報交換の場となった。チュートリアル講義では4名の専門家が登壇し、若手研究者の基礎理解や分野横断的な視野の育成が図られた。

初日のプレナリー講演では、山本尚氏（中部大）が“Revolution of Peptide Synthesis and Freedom from Serendipity Drug Discovery”というタイトルでペプチド創薬の新展開について講演し、David B. Graves氏（Princeton University）は“How Does the Plasma Do It”というタイトルで、プラズマ技術の進展と展望を語った。西谷智博氏（Photo electron Soul Inc）は半導体計測革新について“Photoelectron Beams From GaN-Type Semiconductors bring Innovations In Semiconductor Manufacturing Process Metrology and Inspection”というタイトルで講演し注目を集めた。2日目にはMark J. Kushner氏（University of Michigan）やToby Jenkins氏（University of Bath, UK）による基調講演が行われ、プラズマと液体界面の制御、医療応用への展望などが紹介された。夜にはバンケットも開催され、国際的な交流が深まった。

3日目にはHori Prize 受賞者である加藤俊顕氏（東北大）が1D・2D材料の合成について講演し、Richard Van de Sanden氏（Eindhoven University of Technology）と畠山力三氏（東北大）によるHall of Fame 記念講演、また宇宙推進技術に関する小泉宏之氏の招待講演も行われた。さらに、Jenq-Gong Duh氏（National Tsing Hua University, Taiwan）によるISPlasma Special Recognition 講演では、プラズマによる表面改質技術の展望が紹介された。

最終日にはMingwei Chen氏（Southern University of Science and Technology）によるナノ多孔質金属の基調講演が行われ、プログラムの締めくくりとなった。閉会式では、ISPlasma Prize（Nicolas Grandjean氏 École polytechnique fédérale de Lausann）やMasaru Hori Prize（小林篤氏 東京理科大）の受賞が発表され、Best Presentation Award（4件）、Best Poster Presentation Awards（10件）も授与された。次回ISPlasma/IC-PLANTS2026は、名城大学にて2026年3月2日~6日に開催予定である。